函館高専

学校だより　第214号
～2022年10月号～

【目 次】

ご挨拶
1．校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長から ・・ p. 1
2．各センターから　総合学生支援センター ・・・・・・・・ p. 6
グローバルセンター・キャリアセンター p.8
令和３年度本科卒業生・専攻科修了生の進路先 ・・・・・ p.9
3．各学科・コース長から ・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10
4．第１学年担任団から ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.13
行事の実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.17
春潮寮通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.18
国際寮通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.19
函館高専地域連携協力会から ・・・・・・・・・・・・・・・ p.20
新任教員・職員の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.21

独立行政法人国立高等専門学校機構
函 館 工 業 高 等 専 門 学 校
National Institute of Technology (KOSEN), Hakodate College

ご挨拶

1. 校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長から

『Just Now! ー今を大切にー』

校長　阿部　恵

みなさん、こんにちは。函館高専の後期がスタートしました。ウイズコロナの状況が、まだしばらく続くことが予測されますが、感染拡大防止策のもと、全員で力を合わせ乗り切っていきましょう。

さて、後期は学生の皆さんも学校生活に慣れ、大きく伸びる時期です。一つ目は「学習面における成長」、二つ目は「人間としての成長」です。一つ目の学習面における成長は、前期に培った学習方法や学力を土台にした学びの成長です。

一つ目の学習面における成長について、次の言葉を贈ります。皆さんもご存じの世界的に有名な物理学者アインシュタイン博士が言った言葉です。「昨日から学び、今日を生き、明日へ期待しよう。(Learn from yesterday, live today, hope for tomorrow.)」という言葉です。これから、後期を始めるにあたりふさわしい言葉です。前期に学んだことをしっかりと自分の基礎として、昨日から学び（昨日の授業の復習をしっかりおこない)、今日を生き（今日の授業をしっかりと受け、次の授業に向けて疑問や課題をしっかりもち)、明日へ期待しよう（授業に臨む）というプロセスです。昨日、今日、明日と時間は繋がっています。自分の目の前にある課題に真摯に取り組んでいくことが大切です。

二つ目の人間としての成長は、学校生活の中で、学級活動、部活動、学校行事、寮生活などの協働活動を通じて、クラスメート、寮のルームメート、部活動の先輩・後輩たちと関わり、議論や対話を通して、さまざまな視点から物ごとを考えたりすることにより人間としての考えが深まっていく、人間としての成長です。人間として成長するには、一人一人が違う個性や考えを持っていることを尊敬し合い、お互いの考えに耳を傾けることから始まります。函館高専の学生一人ひとりがそれぞれに大きく成長できる後期になることを期待しています。

後期は、学級活動や寮の行事の他に、高専祭や学年末スポーツ大会等の学生会主催の行事があります。コロナ感染拡大状況によっては、今までとは違った展開になるかもしれませんが、皆さんと一緒に考え、できる限り学校行事を実施していきたいと考えています。学生の皆さんも協力してください。

それでは、新型コロナウイルスに負けることなく、皆さんにとって、後期も函館高専での学生生活が有意義なものとなるよう、教職員全員で皆さんを支援してまいります。

『現状に妥協せず、不断の改善と成長』

教務主事　生産システム工学科　教授　柳谷　俊一

新型コロナの感染拡大は今年７月から第７波に入り、函館をはじめ全国各地で過去最多となる感染確認が相次ぎました。本校においても学生や教職員の感染増が危惧されたことなどから、夏休みの開始を早め、前期期末試験の実施時期を夏休み明けの９月中旬まで延期しました。この対応に伴っては、学生や保護者の皆様には多大なるご理解とご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、本校は昨年度、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受け、同機構が定める高等専門学校評価基準に適合した高専として認定されました。しかしながら、改善を要する点も指摘され、学校としてその対応に取り組んでいるところです。今後は教学マネジメント体制を確立させ、現在の教育をより質の高いものとしていくこと、また、将来に向けたこれからの教育についての検討を実施します。教学マネジメントは本校ウェブサイトにも掲載している「三つの方針」つまり「ディプロマ・ポリシー（称号授与の方針）」「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成と実施の方針）」「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」に基づく体系的で組織的な教育を展開し、その成果を点検・評価し、教育及び学修の質の向上に向けた改善に取り組むことです。学校として現状に妥協せず、複合的な視野を持って不断の改善活動を進めていきます。

認　定　証
Certificate

函館工業高等専門学校長　殿
President, National Institute of Technology, Hakodate College

貴校は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施した高等専門学校機関別認証評価において大学評価基準に適合していることを認定したことを証する

This is to certify that National Institute of Technology, Hakodate College is accredited by the National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education in accordance with its Standards for Evaluation and Accreditation of Universities.

令和４年３月24日
March 24, 2023

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
機構長　福田秀松

Fukuda Hidematsu
President
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

高等専門学校機関別認証評価認定証

学生の皆さんにおいてはどうでしょうか？現状に妥協せず、自己の成長に向けて活動していることと思います。学校の成績では「優」の科目が多いことや「席次」が上位であることが良しとされていますが、一方で数値として示すことが難しい「無形の力」も重要です。これらには分析力・観察力・洞察力・判断力・決断力などがあるとされています。高専のモデルコアカリキュラムでは分野横断的能力が関係しています。物事を的確に進めるためには、情報収集→整理→判断→決断→行動という流れのなかで本質を見極めて決断することが重要です。単に言われたことを表面的な理解で対応しているだけでは不十分です。暗記力が優れていれば、学校ではある程度良い成績をとれますが、暗記力は社会が求める能力としては重要ではありません。物事の本質を見極めるためには、その意識を常に持っていることが大切です。勉強も大事ですが、政治や経済も含めて社会で起こっていることに関心を持ち、その現象の持つ意味、本質を理解しようとしてみてください。そのような姿勢を持つことで自然に「無形の力」が養われていきます。複合的な視野を持って常識を疑ってみるとおもしろいですよ。

『函館高専内から外へ視野を向けた成長の仕掛けづくり』

学生主事　一般系　教授　下郡 啓夫

リクルート進学総研から 2022 年 8 月､『進学センサス 2022～高校生の進路選択に関する調査～』の調査報告が公開されました。こちらの調査では、2022 年に高校を卒業した全国の男女 21 万人を対象に、コロナ禍前後の行動変容を含め、経年比較・最終進路先別から見える、中長期的な高校生の進路選択行動の変化について報告がなされています。

この調査報告の中で、特に私の目を引いたのが､「志望校の絞り込みの早期化」です。最終進路の学校種を問わず、高校生の進路選択のスタートは早まっているとの分析がなされています。また、 高校３年生で初めて学校を調べ始めている生徒は２割を切っており、資料請求は高校２年生が最も多く、約４割が動いているとのことです。

このように進路選択に向け、早期の情報収集を行っている一方で、出願校数は減少、特に複数校受験をする高校生が減少しているとのことです。ただ、４月に入学する大学へのオープンキャンパス参加率については上昇傾向にあるとのこと。

これらの高校生の進路選択行動の傾向から、オープンキャンパスを通じた直接の情報収集は、最終志望校の確認という１点のみで行う傾向が強くなってきていることが分かります。また、そのために、資料請求を早い段階、１年以上前から行っているという高校生の実態が見えてきます。

新型コロナウイルス感染症拡大は、私たちのキャリア観に大きなインパクトを与えたと考えます。経済・社会環境の不確実性が高まっているのみならず、人生 100 年時代といわれる昨今、長期的なキャリアデザインに取り組むことは欠かせません。しかし、その長期的なキャリアデザインが不透明だからこそ､「今、ここ」にいる自分の喫緊のライフステージを早期に、確実なものとしたい、そのような願望が見え隠れします。

なにか確実に実感したい、それは自身の学びの成果、函館高専で過ごした時間もそうでしょう。ただ、その実感は函館高専内にとどまっていては得ることはできません。地域、社会に飛び込む挑戦の結果、得られる失敗・成功経験がその実感を与えてくれます。そして、その実感が、成長の原動力になるのかと思います。その意味で、函館高専内外に視野を向け、みなさんと地域・社会が一緒に育つ場づくりをこれから模索したいと思っています。

『寮務主事挨拶』

寮務主事　生産システム工学科　教授　森谷　健二

令和４年度より寮務主事を拝命しました生産システム工学科の森谷です。本年度は新入寮生男子 27 名、女子９名の一年生を迎えて男子 148 名、女子 38 名での寮生活がスタートしました。

寮生活は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高いと言われている「３密」の条件に該当する部分が多くありますが、このような条件においても、感染者を出さない、拡散させないための可能な限りの感染対策を講じて寮を運営しております。具体的には、

- 食堂のレイアウト変更（座席数減)、給食配膳方式の変更、黙食の励行
- 食堂、風呂、点呼を分散（時間差）方式とする
- 手洗いや手指消毒の励行（各棟各階へのアルコール消毒液の設置）
- 朝晩の検温と定期的な居室の換気
- 洗濯機や補食室などの共用部分の消毒
- 自室外(他室訪問を含む)でのマスクの着用
- 他室訪問時間の制限
- 大声での会話や挨拶の禁止
- 体調不良時には学校保健室や保健所との連携

などがあります。

春潮寮は教育寮ですから、完全に自由な生活ではなく健全な学校生活を送るため、そして集団生活のためのルールのもとで寮生同士が楽しく生活をしていく場です。本来であれば寮生同士の交流は望ましいことであり、そのような交流を通してコミュニケーション力が育まれていきます。しかしながら、現状では皆さんの安心と安全を守るための新型感染症対策として上記のようなさらなるルールや制限が追加されています。寮生の皆さんにとっては少し窮屈かもしれませんが、感染対策は寮生の皆さんの協力が必要不可欠です。一人ひとりが他者に与える影響の大きさを自覚して予防・拡散拡大防止を意識した行動を期待しています。

寮生の皆さんや保護者の皆様が少しでも安心できるように、函館高専・寮務委員会・寮務係一同で皆さんの「安心・安全な寮生活」を支援していきたいと考えております。

『専攻科生の進路と対策』

専攻科長　社会基盤工学科　教授　平沢 秀之

高専専攻科は、本科５年間の課程を修了した後、２年間の高度な専門教育を受ける学びの場です。函館高専には、生産システム工学専攻、物質環境工学専攻、社会基盤工学専攻の３専攻が設置され、2022 年度は１年生が 20 名、２年生が 23 名在籍しています。専攻科を修了すると本科と併せて 7 年間の教育を受けたことになり、大学 4 年卒と同等の学歴(大卒)が得られます。函館高専専攻科では、それぞれの専攻に関わる専門科目のほか、３専攻を横断する一般科目も受講でき、更には一つのテーマを ２年間に亘って取り組む研究(特別研究Ⅰ・Ⅱ)を指導教員の下で行うこととなります。

専攻科を修了した後の進路は、例年約半数がそれぞれ大学院進学及び就職となります。2021 年度修了生 13 名(2022 年 3 月修了)の進学先は、北海道大学大学院(3 人)、横浜国立大学大学院(１人)、長岡技術科学大学大学院(１名)、豊橋科学技術大学大学院(１名)となっています。一方、就職先は、北海道電力(株)、セイコーエプソン(株)、東芝インフラシステムズ(株)、(株)構研エンジニアリング、道南食品(株)、SUBARU テクノ(株)、オークマ(株)が各 １ 名ずつとなっており、函館市内、北海道内、国内と幅広い地域、分野に就職しています。2022 年度修了見込み学生も、この記事が公開される頃には多数の進学先、就職先の合格、内定が判明していると思われます。ちなみに、2022 年度修了生向けの求人件数は 1077 件(8 月末の時点)となっており、在籍学生数に対して十分すぎる求人があります。

専攻科修了後の進路は、上記のように有名国公立大学や安定した企業へ進むことが可能ですが、それは専攻科に入れば自動的に何もせずに行けると言う訳ではなく、学生自身がしっかり対策を立てて入学試験・就職試験に臨んだ結果です。合格、内定に向けては、特に面接や調査書等の自己 PR は重要で、これまでの知識・経験や積極性等を自信を持って示すことが必要です。専攻科は 2 年間ですが、進学就職試験は年度の前半に行われますので、約 １ 年間の知識・経験で受けることになります。研究も途中段階での成果しか出ていません。そこで自己 PR としては、本科での知識・経験も含め、更に専攻科進学後、如何に成長したか(知識・経験の積み増し)を PR する。研究も問われるので、取り組んでいる研究の背景と目的、予想される成果、成果が実社会にどのように貢献するかを確実に述べられるようにします。専攻科 １ 年生とこれから専攻科を目指す本科生は、このようなことも念頭に置きつつ、進路選択を考えていただきたいと思います。

2. 各センターから

『総合学生支援センター長挨拶』

総合学生支援センター長　一般系　教授　下郡 啓夫

2020 年 2 月 28 日に、文部科学省から全国の小・中・高等学校への休業要請が発出されました。その頃に比べると 2022 年の今は、学びを止めないための授業のあり方は大きく進化してきていると思います。

しかし、 函館高専におけるキャンパスライフの喪失から、学生のみなさんの「孤立化」をどう防いでいくのかという課題は未だ残っているように思います。つまり、これまでの高専生活の中で、自然な形でできていた同級生や先輩、教員、地域の方々との繋がりが希薄になってしまっているという課題です。こうした繋がりは、多くの気づきや将来に繋がる人間関係の構築の場を創出し、みなさんの成長速度を加速させるものです。ただ、コロナ禍においてその機会を失っていることが、多様な価値観や人間性の醸成に大きく影響しているように思います。

函館高専は、専門的技術者としての専門的知識の修得の場であると同時に、人生の多感な時期に、社会に出るための経験、人間形成をする場です。学生のみなさん一人ひとりの成長機会が失われないようにする工夫が求められますし、今後そのような観点で、総合学生支援センターの取組内容を検討していければと考えています。

『まずは、話しに来てみませんか？』

学生相談室長　生産システム工学科　教授　本村 真治

学生相談室長の本村です。学生のみなさんが少しでも充実した学生生活を過ごせるようサポートしていきたいと考えていますので、宜しくお願い致します。

さて、子どもから大人へと大きく変化する時期を過ごしている学生のみなさんは、多かれ少なかれ、色々な悩みを抱えていることと思います。悩むことは成長するうえで必要なことと思いますので、大いに悩んでください。しかし、悩み過ぎて気持ちが落ち込んでしまうこともあるでしょう。そんな時、誰かに話すだけで気持ちが楽になることがあります。きっと、悩みごとを言葉にする過程で頭の中が少し整理されるのでしょうね。

悩んで気持ちが落ちてきたなと思ったら、遠慮なく学生相談室に話しに来てください。秘密は厳守し、みなさんの同意なく相談内容が学生相談室以外の誰かにもれることはありませんので安心してお話しいただけます。図書館２階の学生相談室で５名の教員と２名のカウンセラー（臨床心理士）が、平日午後３時～５時の間、みなさんの来室をお待ちしています。ＱＲコードで簡単に予約もできますのでご利用ください。

(学生相談室 Web予約システム)

なお、これまで実施できていなかった火曜日のカウンセリングについて、夏休み明けからはカウンセラーを増員して対応し、さらに後期からは社会福祉士の資格を持つ学外の専門家にもスクールソーシャルワーカーとして加わっていただくなど、サポート体制を強化すべく準備を進めています。

『学習支援室を活用して高専の勉強方法を身に付けましょう！』

学習支援室長　社会基盤工学科　教授　宮武　誠

昨年度に引き続き学習支援室長を務めております社会基盤工学科の宮武です。学習支援室では昨年度に引き続き、低学年の皆さんの自律した学習(自学)に向けた支援を行っており、その取り組みを紹介します。１つ目として高専の基幹科目である「数学」の補講を習熟度クラスによって行っています。具体的に、やれば出来るという「自信」を付けるレベル、出来るようになりたいと思う「向上心」が芽生えるレベル、もっと深く知りたいと思う「探求心」によって自学できるレベルと学生の学習意欲に応じて３つのクラス編成により毎週一般系理数教員と共同して補講を行っています。２つ目は高専の勉強方法がわからない、やる気が出ない、勉強しているのに成績が上がらないという悩みを抱えている低学年の皆さんに、同じ経験をした高学年の学生さんが高専の勉強の色々な面でアドバイスするピアチュータ制度も昨年度に引き続き運用しています。この他にも全学年向けに、長期休業期間や放課後を利用して英語の力をアップする「TOEIC サロン」の実施(夏期休業期間中はコロナ感染拡大により中止となりました。)や編入学試験受験に向けた自学をサポートする編入学支援などを行っています。せっかくの機会ですから、これらの制度を活用し、高専での学生生活をより良いものにしてください。

『理工系女子をステキ女子の代名詞に！』

女子学生サポート室長　物質環境工学科　准教授　松永　智子

みなさんこんにちは、今年度女子学生サポート室長の松永（物質環境工学科）です。室員の山本先生（一般系）・倉山先生（生産システム工学科）・菊池先生（社会基盤工学科）・松岡先生（一般系）とともに、女子学生をサポートする体制を整えています。今年度も半年が過ぎて、大小さまざまな「困った・・・」「やだな・・・」「あれ・・・？」などが出てきているのではないかと思います。そんな女子学生のみなさんに寄り添うのが私たちです。安心して過ごせる環境づくりを進めています。

また女子学生サポート室では、女子学生対象のワークショップや、女子中学生対象のガールズオープンキャンパスの企画、体験型講座を行う理系女子実験隊/Robogals Hakodate の支援などを通して、理工系女子人材の育成や発掘を行ってきました。こうした活動を通して函館高専に興味を持ち入学してくれる人も増え、うれしい限りです。女子学生サポート室では、ロールモデルを見つけるのもあり、ロールモデルになるのもありです。知っていた人も今日初めて知ったあなたも、私たちと一緒に活動してみませんか？輝く未来を一緒に創っていきましょう！

『国際交流復活』

留学生サポート室長　一般系　准教授　David　TAQUET

新型コロナの影響で数年前から制限されていましたが、留学生サポート室はイベントを開催することが出来ました。７月２日、ベルギーからの新しいパートナー候補（HENALLUX 大学）の代表者を招き、函館で交流行事を行いました。留学生とそのチューター数名、IH（国際寮）のメンバー、そして数名の先生方も参加されました。目的は英語を共通言語として、日本の学生が留学生やゲストに自分たちの知識や函館への愛着を伝える機会を提供することでした。このイベントでは、私たち全員が地元の神社に行き、日本人学生が門の入り方、参拝前の手の洗い方、おみくじの意味など、地元の伝統について英語で説明してくれました。その後、五稜郭公園へ向かう途中、有名な函館市電を体験しました。

タワーに登り、五稜郭の戦いを説明するジオラマをお客様に楽しんでいただきました。暑すぎず、雨も降らず、良いお天気の中、公園を散策し、箱館奉行所に入りました。昔ながらの工法で同じように建てられていることに感激しました。イベントはとてもうまくいき、多くの学生（日本人、外国人を問わず）が、函館について新しい発見をしながら、新しい友人を作ることができたと後で話してくれました。

『Global Center の役割と位置づけ』

グローバルセンター長　一般系　教授　奥崎　真理子

二〇一九年十二月、ロンドン・バッキンガム宮殿にて

国際寮の１階に新たに設立されたグローバルセンター。その役割は、令和４年７月末に文部科学省が掲げた「高等教育を軸としたグローバル政策」の、函館高専における事業の推進と旗振り役であり、そのための戦略基地として、グローバルセンターのスペースは位置付けられていきます。

文部科学省は、コロナ禍で激減した学生交流の回復の方向性を示すとともに、産官学あげてのグローバル人材育成の大きな柱の一つとして、明確に「高等専門学校の国際化」を掲げました。高等専門学校の海外展開（タイ・ベトナム・モンゴル）による「外なる国際化」と、海外で活躍できる技術者育成という「内なる国際化」を、高専で一体的に進め、世界に KOSEN を発信するとともに、高専生の海外インターンシップや交流協定校への短期・長期留学送り出しを推進すると明言しています（文教ニュース第 2711 号）。高専に対する文部科学省の期待はかなり高い。高専国際化に相当の追い風です。

グローバルセンターは、函館高専の学生と留学生の皆さんの国際化を支援し、ドラえもんの「どこでもドア」のように、皆さんがチャレンジしたい国際的な活動の機会と皆さんを繋げます。いざ、函館高専生！

『コロナ禍3年目の進路・キャリア教育』

キャリアセンター長　物質環境工学科　教授　小林　淳哉

今年度は春先は、新型コロナ感染者数もやや落ち着いた状況で、就職活動は行動制限など伴わず、ほとんどが会社を訪問して実施できていました。同時期で見た就職内定者数はコロナ前と同じで好調です。ただ、コロナ前には求人のあった航空業界はいまだに募集がないのが違いです。北海道、函館の求人も例年通りです。特に函館圏の企業の高い技術力と業績の好調さから求人意欲は高く、企業活動から地域を盛り上げていく人材としての期待は大きいです。地域企業が盛り上がってこそ函館高専の存在意義もあります。一方、大手企業で研究開発をしたいと望むなら、進学も視野に入れてほしいところです。４年生のインターンシップは第 7 波による急激な感染者の増加により夏休みが前倒しされ、夏休み明けが早まった関係で影響を受けている学生もいます。

ここ数年の傾向としては、全国の高専生は社会ニーズは非常に高いです。会社が高専卒業生に期待されているのは、その技術や学んできたことを基にした創意工夫、深い考察などを通して、企業に利益をもたらしてくれるように成長してくれることです。ぜひ低学年のうちから受け身体質にならず積極的に色々チャレンジしましょう。本校では社会に関わる機会も多く用意されています。ビジネスを視野に低学年にも声をかけている先生もいます。今年度は起業をするための勉強ができる研修も用意するので、ぜひ参加してください。

令和４年３月 本科卒業生の進路先について

就職先等											
生産システム工学科						物質環境工学科		社会基盤工学科	
機械コース		電気電子コース		情報コース					
東急建設（株）	1	（株）Ｊ-POWERハイテック	1	日本オーチス･エレベータ(株)	1	北海道エア・ウォーター(株)	1	東急建設（株）	1
三井住友建設（株）	1	住友電設（株）	1	北海道電力(株)	1	キリンビール(株)	1	三井住友建設（株）	1
キリンビバレッジ（株）	1	日本通信エンジニアリングサービス(株)	1	北海道ガス(株)	1	山崎製パン(株)	1	鹿島クレス（株）	1
藤森工業(株)	1	昭和電工(株)	1	アイ･システム(株)	1	(株)合食	1	シンヨー（株）	1
シンセメック(株)	1	日本電子(株)	1	アイシン･ソフトウェア(株)	1	函館五稜乃蔵(株)	1	(株)高橋組	1
DMG森精機(株)	1	(株)日立情報通信エンジニアリング	1	(株)インテリジェント ウェイブ	2	藤森工業(株)	1	(株)東鵬開発	1
(株)牧野フライス製作所	1	東京ガス(株)	1	NECネッツエスアイ(株)	1	旭化成(株)	1	飛島建設(株)	1
(株)ニコン	1	中部電力パワーグリッド(株)	1	(株)NTT東日本	1	ENEOS(株)	1	西松建設(株)	1
日信電子サービス(株)	1	(株)ネクスコ･エンジニアリング北海道	1	(株)OEC	3	第一三共プロファーマ(株)	1	(株)NIPPO	1
ダイキン工業(株)	1			TDCソフト(株)	1	東亞合成(株)	2	(株)森本組	1
東芝エレベータ(株)	1			(株)DNP情報システム	1	日東電工(株)	2	(株)横河ブリッジホールディングス	1
SUBARUテクノ(株)	1			フラー(株)	1	(株)日本触媒	1	(株)LIXIL	1
本田技研工業(株)	1			(株) USEN-NEXT HOLDINGS	1	日本ゼオン(株)	1	東京ガス(株)	1
太平洋セメント(株)	1			ムラテックCCS(株)	1	フィルネクスト(株)	1	東海旅客鉄道(株)	1
東京ガス(株)	1			その他	1	(株)三井化学分析センター	1	トランスコスモス(株)	1
東京下水道サービス(株)	1					三菱ガス化学(株)	1	パシコン技術管理(株)	1
東京水道(株)	1					北海道電力(株)	1	北海道開発局	3
北海道電力(株)	1					北海道ガス(株)	1	函館市役所	1
(株)グローバルコミュニケーションズ	1					その他	2	その他	2
東海旅客鉄道(株)	1								
その他	4								

進　　学　　先										
生産システム工学科						物質環境工学科		社会基盤工学科	
機械コース		電気電子コース		情報コース					
函館高専専攻科	3	函館高専専攻科	2	函館高専専攻科	7	函館高専専攻科	5	函館高専専攻科	2
千葉大学	2	北海道大学	3	北見工業大学	1	弘前大学	2	室蘭工業大学	1
東京農工大学	1	室蘭工業大学	2	東北大学	1	長岡技術科学大学	4	長岡技術科学大学	3
長岡技術科学大学	3	長岡技術科学大学	2	金沢大学	1	豊橋技術科学大学	2	豊橋技術科学大学	3
信州大学	1			豊橋技術科学大学	2	九州大学	1	北海道情報大学	1
山梨大学	1			宮崎大学	1				
金沢大学	1			はこだて未来大学	4				
豊橋技術科学大学	3								
島根大学	3								
愛媛大学	1								

令和４年３月 専攻科修了生の進路先について

就　　職　　先　　等						進　　学　　先					
生産システム工学専攻		物質環境工学専攻		社会基盤工学専攻		生産システム工学専攻		物質環境工学専攻		社会基盤工学専攻	
オークマ(株)	1	道南食品(株)	1	(株)構研エンジニアリング	1	横浜国立大学大学院	1	北海道大学大学院	1	北海道大学大学院	2
セイコーエプソン(株)	1					長岡技術科学大学大学院	1			豊橋技術科学大学大学院	1
東芝インフラシステムズ(株)	1										
SUBARUテクノ(株)	1										
北海道電力(株)	1										

3. 各学科・コース長から

『「設計できる」と言える自信をもとう！』

生産システム工学科機械コース長　生産システム工学科　教授　本村 真治

機械コースでは『人と環境のために役立つアイデアを、実際に使える「機械」として形にする（つくる）ことができる機械技術者の育成』を目指しています。例えば、自動車は人や荷物を遠くへ速く運び、ロボットは人に代わって正確な作業をし、大いに役立つ機械です。機械をつくるために必要な能力を修得するため、材料の性質や強度、加工、運動、制御、エネルギーなど機械に関する専門知識を座学だけでなく実験・実習により体験的に学びます。

なかでも機械設計は極めて重要で、設計能力を身に付けるために様々な勉強をしているといっても過言ではありません。どんなに良いアイデアも、それを形にするための設計図がなければ製作できず、設計技術は「ものづくり」には必須なのです。学生の皆さんには、例えば面接で尋ねられたときに「設計ですか。やればできますよ！」と自信をもって言ってほしいのです。その自信は高専の機械コースで学ぶ学生だからこそ獲得できるもので、機械設計に限らず企業や大学で新技術開発や基礎研究へ挑戦するときの強固な基盤となります。

今、気候変動やエネルギーなど様々な課題解決に向けアイデアを機械システムとして形にできる機械技術者が必要です。「設計できる」と自信をもって言うために必要なカリキュラムと学ぶための環境が函館高専にはありますし、我々教職員もしっかりサポートしていきます。

『チャレンジの先に明るい未来がある』

生産システム工学科電気電子コース長　生産システム工学科　教授　高田　明雄

電気電子コース所属の学生に対する高い求人倍率は、社会からの電気電子技術者のニーズが高いことの表れと同時に、卒業生の活躍の場が広いことを意味しています。この分野に難解なイメージを抱く人もいるかもしれませんが、勉強する内容の一つひとつは単純なことばかりです。日常のしっかりとしたトレーニング（学習）がやがて大きな力になるのは言うまでもありませんが、楽をして得られる力はたかが知れているので注意が必要です。今や地球規模でエネルギー不足や CO2 排出による地球温暖化が深刻になりつつあります。また、進化し続けている超高速・大容量通信は６G（第６世代移動通信システム）に向かっています。また、自動車は EV（電気自動車）に置き換わり始め、AI 技術も身近に使われています。常に新しい技術が生まれ社会も変わります。このような情勢の中で大事なのは、暗記ではなく、考えて答えを出そうとする力、そして何より困難にチャレンジする姿勢だと思います。人として、礼儀、マナー、そして思いやる心も大切です。困難に立ち向かい乗り越えた経験は、勉学や学校生活を充実したものにしてくれるとともに、卒業後の未来を明るく照らしてくれることでしょう。

『コロナ禍と情報化社会』

生産システム工学科情報コース長　生産システム工学科　教授　河合　博之

新型コロナウイルス禍も３年が経過しようとしています。マスク生活にも慣れてきた一方で、依然として先行きが不透明なため重苦しい雰囲気が社会全体を覆っていると感じます。文部科学省の「次期教育振興基本計画（令和５年～9 年度）諮問の概要」によると“超スマート社会（Society 5.0）”や“ウェルビーイング”等のキーワードが掲げられ、「望む未来を私たち自身で示し、作り上げていくことが求められる時代」と 2040 年以降の社会を予想しています。超スマート社会は、一人一人の人間が中心となる社会で労働市場の構造や職業そのものの抜本的な変化を指し、ウェルビーイングとは、一人一人の可能性が最大限に引き出され、多様な幸せであるとともに社会全体が幸せになることを言います。その中で、高等専門学校を含む各段階の教育機関には、社会のニーズに応えるよう教育や学習の在り方も大きく変容が求められる時代となってきました。コロナ禍により、テレワークは大企業を中心に広まり、働き方は大きく変わろうとしています。企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）が進み、デジタル人材の争奪はいっそう激しくなることが予想されます。このような社会で活躍できる学生の育成に取り組むことは急務です。

『物質環境工学科の紹介』

物質環境工学科長　物質環境工学科　教授　清野　晃之

物質環境工学科では、環境問題の解決や新素材の開発などに貢献できる人材育成を目的として、化学や生物を基本とする教育・研究を進めております。低学年では、基礎的な知識や技術を修得し、高学年では材料の特性を解析する様々な分析装置に触れたり、環境やバイオテクノロジーに関する講義・実習を受けたりすることで、より高度な専門教育を受けることができます。最近、テレビや新聞などで SDGs という言葉を良く耳にしますが、これは将来の世代の暮らしを持続可能な形で改善することを目指したものであり、本学科でも農・水産物の規格外品や食品加工の際の廃棄物を有効利用する技術の研究開発などに取り組むことで、その目標達成のために貢献しています。

進路については、進学希望者が年々増加傾向となっております。令和４年８月現在、豊橋・長岡の両技科大、東京農工大、岡山大、岩手大、室蘭工大、弘前大、専攻科に進学が決定しています。また、就職は道外の大手企業が中心となりますが、道内企業への就職希望も年々多くなっているように感じます。1 年生の皆さんは学科配属を決める際に悩むかと思いますが、もしわからないことがあれば教員または学生に聞いてくださいね！

『持続可能な社会形成の一役を担う社会基盤工学科』

社会基盤工学科長　社会基盤工学科 教授　宮武　誠

社会基盤工学科は、皆さんの豊かで安全安心な生活を支える公共性の高いインフラ(社会基盤)に関わる専門知識を学ぶ学科です。皆さんが普段何気なく利用する道路や橋、そして建物、日常生活に不可欠な水やガス、電気などのライフラインなど社会基盤工学科が対象とする分野は非常に広範です。近年は地球温暖化が進行する中、自然災害が頻発し、その威力も巨大化しています。このような自然災害から皆さんの命や財産を守るという重大な役割を担っている学科でもあります。

そんな中、社会基盤工学科では持続可能な未来社会の課題解決をするため、津軽海峡の潮流や海流といった海洋再生可能エネルギーを利用した発電システムの開発や、自然環境との調和や景観に配慮した木構造を災害時の緊急仮設橋に応用する研究などに、卒業研究等で学生を参画させて積極的に取り組んでいます。

また、建設業界ではコロナ禍と人口減少の中、ICT の全面的な活用が進み、リモートにより建設工程や施工管理等が行われるようになりました。社会基盤工学科では、このような建設技術の変容にもいち早く対応し、持続可能な未来社会のインフラ整理を担い、新しい分野にも挑戦していく建設技術者を養成する学科として引き続き、学生の教育・指導に注力していきます。

最後になりますが、本校の学生はコロナ禍にも負けず、何事にも一生懸命かつ楽しく学校生活を送っています。そんな学生達を引き続き、サポートしていきたいと思いますし、このコロナ禍がいち早く終息し、以前の高専に戻れることを願うばかりです。

4. 第１学年担任団から

『後期に向けての期待』

第1学年主任　一般系　教授　菅　仁志

今年度、１学年主任を担当しております一般系・数学の菅です。早いもので、４月の入学式後、簡単にご挨拶させていただいてから半年ほどが過ぎてしまいました。

今年度の高専も、４月早々の「オンライン授業への切り替え」や「クラブ活動の全面停止」、あるいは「夏季休業期間・前期期末試験期間の変更」といったコロナ禍の影響をもろに被るスタートとなってしまいました。そんな中にあっても、７月には、３年ぶりに体育祭が実施されるなど、徐々に通常の学校生活が戻りつつあることを実感できるような場面もありました。

特に体育祭は、１回の雨天順延を経て、e-sports 競技も準備をしながら万全（？）の態勢で臨んだことでもあり、ずっと長雨の続く中で、午後から日の差すこともあった好天に恵まれた当日の学生達の喜びは、ひとしおのものがあったように見受けられました。

今年度も後半戦が始まりましたが、依然コロナの状況は予断を許さないものがあります。しかし、ここ数年もそうであったように、たとえ厳しい状況にあっても、学生・教員達の創意工夫で、学生達は、おそらくできる限りの勉学や課外活動、行事等に励んでくれるものと期待しております。そして何より、この後半戦が、以前の通常の学校生活に近づいていくような期間になってくれることを願っております。

『未来に挑め』

1年1組担任　一般系　教授　鳴海　雅哉

１年生のみなさん、ようこそ函館高専へ。私は今年度１組担任で、ここでは「１年担任挨拶」を書かねばならないのですが、せっかくですので全学生に向けた挨拶ということでこの文章を書くことにします。

１，自分を鍛えよ！～「勉強すれば明るい未来が待っている」という世の中ではなくなりました。それは「勉強しなくてよい」ということではなく、「勉強だけでは乗り越えられない」という意味です。日々の生活の中で自分自身を鍛えてください。コツコツとした取り組み、これが肝要です。

２，将来を見据えよ！～右肩上がりに発展していく時代はすでに終わっています。みなさんは混迷する世界に旅立ちます。「成り行きまかせ」という姿勢では、いざ求められたときに対応できません。「将来どうなるか」を見据え、準備をしましょう。

３，汝が夢を持て、大志を抱け、力強かれ！～目前の事案をこなすだけでは、それだけです。夢や大志を持ち、それに基づいた言動を心掛けましょう。そうするだけで世界は変わります。これはご存じの通り、本校の校訓です。詳しくは授業でお話しします。

みなさんの栄えある前途に期待しています。

『答えのない世界』

1年2組担任　一般系　講師　松岡　由佳

１年生の皆さんは、入学から半年余りが経ちましたね。高専生活には慣れましたか？中学校時代と比べて行動範囲が広がり、いろいろな面で視野も広がってきたのではないでしょうか。

私は今年度、１年２組の担任を務めています。函館高専に着任して２年目。担任のお仕事は今回が初めてです。「こういう時はどうしたらいいのだろう？」「うまく伝わらないなあ…」など、分からないことや失敗ばかりの毎日ですが、同時にとても勉強になります。

この半年余りで感じたのは、担任のお仕事に「ただ一つの答えはない」ということです。これは（特に文系の）研究や、皆さんの将来についても言えることですが、「正解」や「最も優れた選択」というのは、実はどこにもないのです。何が正しい、あるいは間違っているといった物事に対する評価は、立場によって、また状況によって変わってきます。

理系の皆さんにとっては、ただ一つの解が見つかる方がすっきりするかもしれません。しかし、答えがないからこそ、考えたり工夫したりする余地がたくさん残っているのです。学生時代は、そうした「答えのない世界」とじっくり向き合える、とても貴重な時間です。専門分野の勉強でも将来のことでも構いません。ぜひ、自分なりの「答え」を探しに出かけてみてください。

『これまでの1年3組を振り返り』

1年3組担任　一般系　教授　清野　國安

年度当初、高専生活が始まるにあたり、私が皆さんに「判断力とバランス」ということについて話をしたのですが覚えているでしょうか。もう半年前のことですので忘れてしまった人もいると思いますが、皆さんに意識してほしいこととして敢えて話をしました。高専に入学したばかりでしたので少し難しいことだったかもしれませんね。でも、日常生活ではあらゆる場面において判断しなければならない瞬間が次々と起りえますし、物事に対する取り組み方についての参考になればいいなと思った次第です。では、この間の皆さんは個々に振り返ってみてどうだったでしょうか。

次に、これまでに気になったことを一つ挙げてみますと、例年になく頭痛・腹痛・吐き気等の症状で欠席する人が多かったということです。体調不良はいろいろな面でマイナス要素になりますので、体調管理には十分気をつけてもらいたいと思います。そして、担任としては皆さんにとって１年生の残り約半年間を充実したものにできることを願うばかりです。

『“*Life is like riding a bicycle*”』

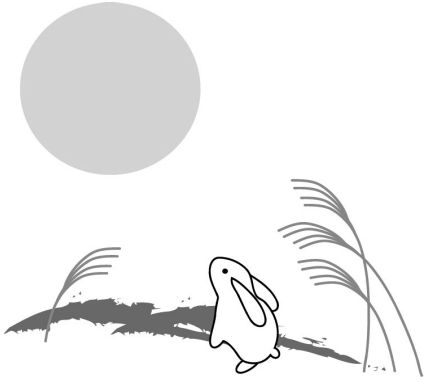
1年4組担任　一般系　准教授　宮崎　真長

入学当初から１年４組の皆さんは明るくて人なじみしやすい雰囲気のクラスでしたのですぐにお互い仲良くなれたかと思います。７ 月に行われた体育祭では、体育祭前からクラスＴシャツの作成を協力的にできていましたし、当日は大縄跳びや綱引き、徒競争や障害物競争など、皆さんが頑張っている姿や応援する姿をたくさん見ることができました。これからもお互いに助け合ったり頼ったり、クラスの仲間の人間関係を大切にして高専生活を過ごしてください。高専生になって中学の頃と大きく違うのは自主性、自己責任が求められることですが、悩んだり、不安になったりすることも多いと思います。そんなときに友人の力がとても大事になります。また、高専１年生にとって大きな目標が高専生活スタイルを身につけることですが、皆さんは通学や９０分授業にも慣れてきて、概ね対応できている様子です。ただ、毎日の自宅学習の習慣がまだ身についていない人もいるようですので、これから後期の間にしっかりと身につけてから２年生になりましょう。（タイトルはアインシュタインの名言の一部です。“*To keep your balance, you must keep moving.*”と続きます。）

『主役は学生 よく学び よく遊べ』

1年5組担任　一般系　准教授 北見 健

今年の１年５組はとても評判の良いクラスです。授業担当の教員から、授業に取り組む姿勢・提出物の状況・小テストの成績などなど、いろいろなことでよく褒められています。担任の私自身は１年生の授業を受け持っていないため授業中の様子は直接的にはわからないのですが、特活や掃除などで見るだけでもよく自主性を発揮してくれているのを感じます。クラス内の構成を少し紹介すると、男女比は３対１、クラスの６分の１は市外・道外から入学した寮生です。また、クラスの４分の１が運動部、同じく４分の１が文化系クラブで活動しています。勉強面を心配してとりあえずクラブ活動には参加していなかった人もいるようですが、そういう人にもそろそろ何か活動を始めてみてほしいところです。コロナ禍で始まった高専生活ですが、将来の大きな夢に向かう助走期間として、勉強にも遊びにも全力で取り組んでほしいと思います。とにかく学校の主役は一人ひとりの学生さんです。担任教員はそのためのサポート役です。どんなことでもどしどし相談してください。１年間よろしくお願いいたします。



行事の実施状況

～少しずつ見え始めた函館高専のニューノーマル～

2020 年、コロナウイルス感染症拡大によって、函館高専で予定していた多くの学校行事が中止することを余儀なくされました。しかし、その状況下でも、学生会会員であるみなさんの、「歩みを止めない」という想い、不断の努力が、函館高専の生活を突き進めてくれていました。

そして 2022 年。函館高専のニューノーマルが少しずつ見え始め、新たなスタンダードの確立に向けた動きがなされてきたと思っております。歴史的に定着した学校の役割や学校行事の在り方の見直しと、函館高専の学びからの学校行事の見直し。この２つの観点から、今後も函館高専の学校行事を検討しながら、ニューノーマルに向けた挑戦をしていければと思います。

■新入生歓迎会

４月 22 日（金）、オンラインによる新入生歓迎会がなされました。今年度は、担任と学生の距離を縮めることを意図し、１学年担任に関するクイズ大会を行っております。また、新たな高専生活での不安・悩みに対する『なんでも相談会！』を実施、学生会役員が飾らない口調で回答することで、先輩への親近感を感じてもらいつつ、高専生活のリアルを伝えました。

■学生総会

５月 20 日（金）、オンラインによる学生総会を実施いたしました。オンラインによる実施は昨年度も実施しており、そこから得たノウハウは大変貴重でした。今年度の特徴として、学生会規約細則を改めて確認、議事運営の見直しを図りました。このオンラインによる議案の討論は、全高専学生が一堂に会した中ではなく、各クラスで検討できるというメリットがあり、多くの建設的な意見が寄せられました。

■体育祭

７月 12 日（火）、体育祭が本校グラウンドで実施されました。全校学生が一堂に会しての学校行事は２年ぶりであり、その環境の中で自身をどう表現すればいいのか、開会式では、戸惑いの様子が見られたように思います。しかし、競技が進むにつれ、多くの喜びと笑い、拍手が溢れた時間となりました。

(記：学生主事　一般系　教授　下郡 啓夫)

春潮寮通信

本年度の学校だよりから、春潮寮でのイベントの様子などを紹介する春潮寮通信を再開することになりました。「寮ではこんなことをしているんだな」と思って読んでいただければと思います。紙面のほとんどが写真で、説明は最小限としています。

◎4 月：入寮式・新入寮生歓迎集会・一斉学習

今年度は新入寮生男子 27 名、女子 9 名の一年生を迎えて男子 148 名、女子 38 名での寮生活がスタートしました。

写真 1：入寮式の様子。入学式前なので初々しいです。

写真 2：新入寮生歓迎集会。先輩寮生に簡単な自己紹介をしています。

写真 3：男子一斉学習の様子。月～木の 21:00-22:30 まで学習をします。

写真 1

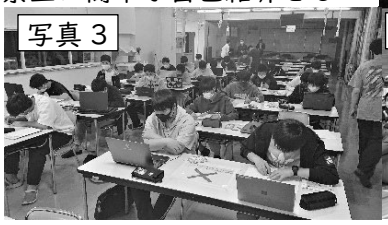


写真 3

写真 2

◎6 月：防災訓練

密回避のために各棟ごとに防災訓練を実施し、非常口や避難ルートの確認を行いました。

写真 4：防災委員が中心となって実施してくれました。

写真 4

◎6 月：寮生定期総会

春潮寮寮生定期総会が行われました。寮生会規約の改正が発議され、今の実態に即した規約への変更が議論されました。

写真 5：第一講義室と各 HR を利用してリモートにて実施しています。

写真 6：寮生会役員の集合写真。息を止めて、ハイチーズ

写真 5

写真 6

◎7 月：七夕交流会

本来は 1-3 年の学年ごとに担任を交えて横の交流を深める「夕食会」がありますが、感染症対策による密回避のため、今年は寮生会主導により担任・副担任が七夕のおやつを持って各居室を回り、寮生は願い事を書いた短冊を渡すという七夕交流会として実施しました。感染症対策で多くのイベントを中止してきましたが、「どうやれば実施できるか」を寮生自らが考え、実行した非常に素晴らしい企画だったと思います。

写真 7&8：居室訪問の様子

写真 9：短冊は湯倉神社に奉納してきました。

写真 7

写真 8

写真 9

次の通信でもイベントを中心に寮生達の生活を紹介して行きたいと思います。

(記：寮務主事　生産システム工学科　教授　森谷　健二)

国際寮通信　～国際寮が本格稼働しました～

令和４年４月から国際寮が本格稼働しました。国際寮は世界各地から集まった外国人留学生と日本全国から集まった日本人学生が共に学び、生活を共有する場です。留学生と日本人学生が同じユニット内で共同生活をしながら、互いの考え方の違いや個性を受け入れ、異なった文化・習慣や多様な価値観を認め合い、相互に理解を深めていくことが期待されています。

国際寮に入れる日本人学生は、大学の学齢である４年生以上を対象としています。入居動機は様々でも、高専グローバルエンジニアの育成という観点から、国際関係の様々な行事に優先的に関わることが求められます。例えば、本校が受け入れる短期外国人留学生・研修生との共同生活はもちろん、提携を結んでいる海外・国内の教育機関の学生やスタッフとの交流、異文化理解・国際交流イベントの企画運営などがあげられます。学業や卒研以外のことである国際イベントに関わる必要があるので、将来グローバル人材になりたいという強い志が大事だと言えましょう。

寮内では、大人としての常識やマナーを重んじ、自ら考え行動することを大前提とします。国、文化、宗教、習慣が異なる外国人留学生と、いかに快適に暮らせるかを常に考えながら生活をしなければなりません。また、自炊なので自分で栄養管理をする必要があります。各ユニットにはユニットリーダーがいて、共同生活をする中で生じる様々な問題を、リーダーを中心に話し合い自分たちで解決することが求められます。この解決に至るプロセスを繰り返すことで、「自ら考える力」そして高専グローバルエンジニアの素養が涵養されて行くのです。

寮内ではフランス、シンガポール、イタリアなどの様々な国から来る短期留学生・研修生とも英語を使う機会もあるため、ある程度の英語力が必要であり、TOEIC L&R 500 点以上を入寮の必須条件としています。現在、モロッコからの短期留学生が入居しており交流は英語でのみです。10 月からはシンガポールの短期留学生２名が入居予定です。こちらも日本語は通じないので必然的にコミュニケーションは英語です。このように、日本にいながら日常的に英語を使う環境にあるのが国際寮の特色だと言えるでしょう。

グローバルセンター（国際寮１階）では、留学生が自分の国を紹介する Global Café が定期的に開催されます。ぜひ参加して文化・習慣・宗教・言語などの Diversity（多様性）を感じてみてください。

・実施済み：マレーシア、モンゴル

・今後実施：モロッコ、インドネシア、ミャンマー、カンボジア、ラオス、シンガポール

(記：国際寮部会長　一般系　教授　臼田 悦之)

函館高専地域連携協力会から

函館高専地域連携協力会は函館高専 OB を中心に結成され、会員企業による合同企業説明会や各種イベントへの支援を通じて、学生の皆さんと学校の応援団として活動しております。

同窓会の学校だより紙面をお借りしまして、協力会の会員企業や取り組みを紹介しておりますが、今回は有限会社ステージ・カンパニーの中川（電気工学科 21 期）が担当させていただきます。

まずは簡単に会社の紹介ですが、弊社のルーツは美原一丁目の「ヤマコ楽器」という楽器屋でしたが、その後平成 9 年に、イベントステージやライブなどの音響照明機材レンタル会社「ステージ・カンパニー」となりました。現在は、道南各地のお祭りや野外イベントのステージで音響照明業務を行う一方、松風町のライブハウス「函館あうん堂ホール」を運営しております。また、昨今のコロナ禍で急激に普及したネット配信関連の業務にも力を入れております。合同企業説明会も過去回オンライン開催となりましたが、そちらのシステム構築や運営にも協力させていただきました。

さて、せっかくの機会ですのでもう少しお話したいことがあります。

私は 1987 年に函館高専卒業後、上京して総合電機メーカーに就職、30 年勤務して 2018 年に函館の実家に戻ってきた U ターン組ということになります。たまに帰省するたびに寂れていく大門地区に心を痛めておりましたので、U ターンした今となっては唯々函館・道南再興のため、お祭り、イベント、ライブなどを通して少しでも地元を盛り上げていけたらと頑張っているところでございます。

函館高専卒業後、就職される学生さんにとっての大きな課題のひとつとして、地元に残るか上京するかということがあるのではないでしょうか。私は、実際に上京した経験からしても、若いうちに一度は上京して、都会ならではの先進性、合理性、利便性、多様性、そして豊富な情報やアイデアに触れるなど、函館では得られない経験をたくさんできると思います。

でも、どうか地元や実家のことは忘れずにいてください。若いうちは親の老後など考えもしないと思いますが、それは必ずやってくる問題ですし、何らかの形で地元を意識するときがやってくると思います。

そういったことを考える時、U ターンでの地元就職や起業を考える時にも、地元での高専 OB が集まっている函館高専地域連携協力会がお手伝いいたしますので是非ご相談ください。そして、上京で経験したことを是非地元に持ち帰ってきて、地元の発展に生かしてください。

取り留めない文章でしたが、この辺にしたいと思います。

函館高専地域連携協力会 Web サイト
https://hakodate-ct-cooperative.jp/

新任教員・職員の紹介

【教員の紹介】

『函館工業高等専門学校に着任して』

一般系　准教授　牧之内　友

2022 年 4 月に着任して以来、早くも半年が過ぎました。私は東京生まれの秋田育ち。北海道大学文学部で宗教学を専攻し、大学院では日本史に転じました。日本近代史、特に宗教史が専門です。高専とのかかわりでは苫小牧高専で非常勤講師等を務めてまいりました。本校では社会科教員として主として歴史・倫理の科目を担当しております。

周知のとおり函館は幕末にいち早く開港した都市で、図式的ではありますが、日本が西欧近代といち早く交錯した場所です。それを記録した街中にある多くの資料館・博物館を巡りつつ、このような場所で青年期を送る学生たちへの羨望を覚えます。

理系の学校で、ともすれば社会から短期的成果が求められる昨今、私が担当する科目も含め、教養を育み、人間的成長を担う一端となるであろう文系分野はどうしても等閑に付されがちです。学生たちとともに学び、研究する中で、その意義と楽しさを伝え、自ら生涯を通して学ぶ姿勢を形づくる一助になれたらと願っています。

『新しい世界』

一般系　准教授　横山　泰範

本年 4 月に着任しました、横山泰範と申します。4 月から主に本科 1 年生の化学の授業を担当し、1 年 1 組の副担任を拝命しております。前期がスタートして 1 週間でコロナウィルスのためオンライン授業となるなど、新任教員には決して優しくない出だしとなりましたが、周囲の先輩の先生方・学生の皆さんのご助力のおかげで、函館高専での教育・研究のスタイルを確立しつつあります。

着任以来数か月たった今感じていることは、函館での生活は私にとって全く新しい世界だということです。函館という街も、函館高専という環境も、どちらも新鮮です。まだこんな新鮮な気持ちになれるのだと、少々驚いています。学生の皆さんは、これからどんどん新しい世界に挑戦されることと思います。そのときに沢山活躍できるように、高専での 5 年間でしっかり実力を蓄えて欲しいと思っています。

【職員の紹介】

氏名：澤田　浩一
①転入年月日：令和４年４月１日
②所属・職名：学生課キャリアセンター　専門職員
③趣味：登山
④抱負など

函館は北大水産学部以来 12 年ぶりの勤務となります。海を眺めていると開放的な気分になり、夏はそれほど暑くもなく冬は積雪が少ないとても住みやすい街の印象です。

高専生の印象は、北大工学部学生課勤務時に編入生が毎年学年で上位の成績であったので、高専の生徒は優秀なんだなあと当時から思っていました。

学生支援業務は初めてですが、コロナ禍において行動が制限されるなか進学・就職活動に果敢に挑む学生を微力ながら支援できればと思います。

氏名：小田　涼太
①転入年月日：令和４年７月１日
②所属・職名：学生課教務係主任
③趣味：音楽鑑賞、レコード収集
④抱負など

はじめまして。苫小牧高専より７月１日付けで参りました、小田と申します。他高専への異動は初めてで、非常に緊張しております。同じ高専ということもあって、業務について似たような部分は確かにあるのですが、結果に至るアプローチが全く異なっていたりして、戸惑うことばかりです。基本に立ち返って、学生のためになることとは何かを一番に考え、日々努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

学校だより　第 214 号
発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番 1 号
TEL：0138-59-6333　FAX：0138-59-6330